

富山市水橋に大きな花火が咲きました

～「水橋橋まつり」実行委員長の大役を終えて～

おかだ　みのり
岡田　美乃利(26期)

「水橋橋まつり」

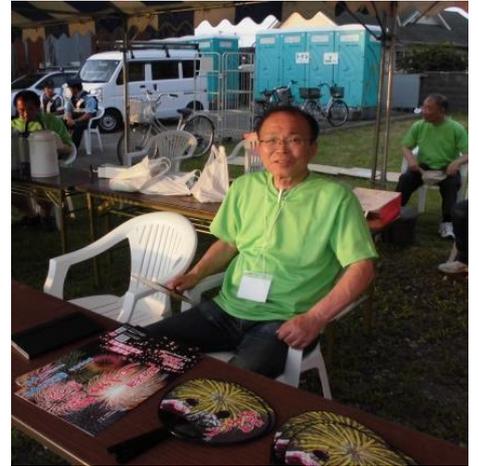
富山市水橋地区は人口2万人、5小学校、2中学校、1高校と農漁村と商店街の地域です。

そして、そのまつりはその地域最大の行事です。

今年、7月25日(土)、「147年祭・水橋橋まつり」が3万5千人の観客で大きな成功を収めた。地域外からも多くに参加者がありました。私はまつりの実行委員長を務めたが、事故もなく無事終わられて、今はほっとし充実感を味わっています。

準備は4月から取り組み、約1500万円の予算の調達の段取り、消防署との打ち合わせ、警察などとの打ち合わせで交通関係の規制、花火業者との打ち合わせ、県内では唯一の小・中・高合同の吹奏楽の市中行進や体育館での演奏会、屋台の出店業者との打ち合わせなどに取り組んできました。

また、河川堤防沿いの草刈、提灯吊りなど朝5時から3回、6時が1回と早起きが苦手な私ですが、多数、100人参加の実務作業に出ざるを得ませんでした。



「水橋橋まつり」準備の中で

花火は、業者が言うには「あと100万円プラスすれば、大玉30連発ができる。これは県内どの花火大会もやっていない」との話に実行委員会は大いに心を揺さぶられ「よし、やろう」と一致しました。

また、一つの小学校から「水橋橋まつりの由来について話をして」と依頼があり、水橋に来て17年になりますが、水橋生まれでも、育ちでもない私が、40分の話をするには図書館に行き、5冊の本を借り、また、古老の方にいろいろ話を聞いたり、猛勉強して40分の講義をしました。この講義は先生を相手に話をし、それをビデオに撮り、後日、生徒に見せるというものです。後日、先生から話があり「生徒は橋まつりの歴史について良く分かった」と感想が出されたと聞き、胸を撫で下ろしました。

花火当日は、市中行進のブラスバンドが午後1時半の炎天下の中、開会挨拶、体育館での小・中・高の合同演奏会の閉会挨拶と駆け回りました。

花火は、事前に業者さんから「花火にはストーリーがあるので、それをスピーカーで簡潔に案内をやる。オープニングは音楽花火、単発をやって音楽花火、スターメイン、大玉30連発、スターメイン、フィナーレはナイヤガラ滝と音楽花火でやる。約1時間です。

準備のしがいがありました

観客の反応は、時々、拍手や歓声が上がリ、大いに盛り上がりました。また、「水橋のまつりの歴史の中で最高の花火だった」「迫力があって良かったね」「水橋の地形、海あり、川あり、橋があり、街並

みがあって、それにマッチした花火で良かった」「舟を7艘だしての船上からの裸火での火流し、巖かで良かったね」、「中学生による吹奏楽はまつりを盛り上げた」などの意見が寄せられました。

まつりの翌日から、ごみ掃除や分別、簡易トイレの撤去、提灯外し、ご協力いただいた企業や個人、学校、警察、消防、借用した駐車場地主などへのお礼のあいさつ回りに飛び回っています。

拡がり強まる地域の絆

取り組みを通じて富山市北商工会水橋支部の支部長をはじめ、青年部、商工会の職員、小・中・高の担当の先生、約40余りの町内会の役員、などと会議は4月以降16回、他に10回程度の作業などを通じて顔見知りになりました。

これまで4回の実行委員をやってきましたが、委員長は勿論、初めてです。

私は、これまで全く付き合いの無かった方が大勢おられ、会議や作業を通じていろいろな話や冗談も言えるようになりました。道やスーパーなどで出会っても「〇〇さん、いつも元気ですね。特に今日は、何かいいことあったのかね」など軽口もでるようになりました。学校の1人の校長先生にも昨日、電車で一緒になり、いろいろ会話もしました。

何でもないことですが、水橋へ来て17年、地方では、よく「よそ者」と言われがちですが、水橋ではそんなこともなく付き合いいただいています。本当に有り難いことです。

実行委員会の反省会はまだ開かれていませんが準備の中で3年後の節目、「150年祭・水橋橋まつり」は盛大で皆様に大いに期待され喜ばれる「まつり」にしようと実行委員会は燃えてきました。

私自身もこの様な大きな行事の責任者、学校の先生相手の「講義」や地元マスコミへの参加と貴重な経験をさせていただいたと思っています。

最後に北辰会会員に皆様、北陸富山の元気を味わって下さい。毎年7月第4土曜日に行われる「水橋橋まつり」にどうぞおいでください。お待ちしております。